

表 8-1 施工機械振動予測結果

単位：dB				
予測地点	影響値	現況値	予測値	環境保全目標
事業区域敷地境界	52~63	30	52~63	規制基準
国崎(近接民家)	13~17	30	30	75

注) 予測値とは、施工機械からの影響値と現況値の合成値。また、予測は工事期間のうち代表的な5つの工事時期を対象としました。予測結果は、これら5ケースの「最小~最大」を示しています。

8.2.2 工事中の工事関係車両の走行に伴う影響

車両の走行経路に当たる県道野間出野一庫線の振動の影響は、表 8-2 に示すとおり各地点とも環境保全目標を下回っています。

表 8-2 工事関係車両振動予測結果(時間最大値)

単位：dB			
予測地点	一般車両のみ	一般車両+工事関係車両	環境保全目標
県道野間出野一庫線(北側)	36	38	要請限度
県道野間出野一庫線(南側)	36	38	65

8.2.3 供用時の施設の稼働に伴う影響

事業区域の敷地境界及び近接する民家における施設稼働時の振動の影響は、各時間区分とも表 8-3 に示すとおり環境保全目標を下回っています。

表 8-3 施設稼働振動予測結果

単位：dB					
予測地点	時間区分	施設からの影響値	現況値	予測値	環境保全目標(規制基準)
事業区域敷地境界	昼間	17	30	30	60
	夜間	15	30	30	55
国崎(近接民家)	昼間	0	30	30	60
	夜間	0	30	30	55

8.2.4 供用時の廃棄物運搬車両の走行に伴う影響

運搬車両の走行経路に当たる県道野間出野一庫線の振動の影響は、表 8-4 に示すとおり各地点とも環境保全目標を下回っています。

表 8-4 廃棄物運搬車両振動予測結果(時間最大値)

単位：dB			
予測地点	一般車両のみ	一般車両+廃棄物車両	環境保全目標
県道野間出野一庫線(北側)	36	38	要請限度
県道野間出野一庫線(南側)	36	41	65

9 低周波音

9.1 現況調査の結果

事業区域 1 地点及び周辺地域 1 地点で低周波音の現地調査を行いました。調査の結果、時間最大値(L₆₅)は事業区域で 65dB、周辺地域で 68dB であり、環境上の保全目標値(100dB 以下)を下回っています。

低周波音(または低周波空気振動ともいいます)は、人の耳には聞こえない低い周波数範囲の音のことを言い、建具のガタツキや圧迫感や睡眠妨害などの心理的影響もあると言われてしています。

9.2 予測及び評価の結果

本事業における低周波音の発生源としては、送風機、空気圧縮機、ポンプ類の設備機械等が考えられますが、以下に示す騒音・振動防止対策を実施することによって低周波音の発生を最小限に抑えられるものと考えます。

- 通風機等は、強固な基礎の上に設置して振動を抑制する。
- 通風機等は、設置部の躯体構造の強化や、防振ゴムの設置等の防振対策を実施する。

また、低周波音の影響は発生源が人の生活空間に近接して存在する場合に問題となると考えられますが、事業区域には近接して住居がないことから影響はほとんどないものと考えます。

10 悪臭

10.1 現況調査の結果

事業区域 1 地点及び周辺地域 4 地点の計 5 地点で、悪臭の現地調査を 2 回(梅雨期 6 月、夏季 8 月)行いました。

アンモニアなどの悪臭物質濃度(22 項目)は、6 月調査及び 8 月調査とも全て規制基準値以下でした。

臭気指数及び臭気濃度は 6 月に事業区域以外の 1 地点で、また 8 月は事業区域で感知されましたが、いずれも周辺の草の臭いを感知したものです。

10.2 予測及び評価の結果

10.2.1 施設から発生する悪臭の影響

ごみピットは、外部との開口部分を必要最小限とするため投入扉を設置して臭気の漏洩を防止し、またごみピットから発生する臭気については、燃焼空気としてピット内から吸引することによりピット内を負圧に保ち臭気が外部に漏れることを防止します。吸引した臭気については、炉内のごみの燃焼とともに酸化分解するため、無臭化されます。

さらに、プラットホーム出入口にはエアカーテンを設置し外気と遮断します。また、プラットホームの清掃を適宜実施します。

以上のように適切な悪臭防止対策の実施・徹底により、施設から発生する悪臭の影響はないと考えられます。

10.2.2 廃棄物運搬車両から発生する悪臭の影響

廃棄物の搬入は、主に県道野間出野一庫線を通じて行う計画となっています。搬入時間帯は、通勤などの時間帯を極力避ける等、路上滞在時間を短くし、周辺住民の生活に支障をきたさないよう配慮します。また、悪臭や汚水の漏洩が考えられる廃棄物運搬車両は、密閉構造の車両(パッカー車など)が採用されているため、悪臭源の漏洩は最小限に抑えられるものと予測されます。

以上のように適切な悪臭防止対策の実施・徹底により、廃棄物運搬車両から発生する悪臭の影響はないと考えられます。

11 自然環境(陸生植物, 陸生動物, 水生生物)

11.1 現況調査の結果

造成区域中心地から約 500m を調査範囲として、動物・植物の現地調査を行いました。

調査範囲の植生は主にコナラ-アベマキ群落となっています。その他、アカマツ群落、スギ-ヒノキ植林等、計 19 の植物群落が確認されました。また植物種は 116 科 524 種が確認されました。これらのうち重要な植物種として表 11-1 に示す 11 種類の植物種が確認されました。

表 11-1 重要な陸生植物

区分	群落・種名
植物種	ケノシダ ^a (b)、コバノチヨウセンノキ(b)、クサ ^a (a)、ミヤコアオイ(b)、イトヒガン ^a (a,b)、ユキヤギ ^a (b)、コケツグ ^a (b)、フサキリスゲ ^a (b)、エビネ ^a (a,b)、キノコ ^a (b)、キノコ ^a (b)

a: 造成区域内で確認。 b: 造成区域外で確認。

動物は、哺乳類がノウサギ等の里山に見られる種やコウモリ類等の森林を好む種、鳥類がウグイス、ホオジロ等の樹林周辺の草地や疎林にみられる種、昆虫類が樹林とその周辺にみられる種が主に確認されました。また、両生類はカエル類、爬虫類はトカゲ、ヘビ類が確認されました。

調査範囲で確認された動物種のうち、重要な種は表 11-2 に示す哺乳類 7 種、鳥類 21 種、両生類・爬虫類 5 種、昆虫類 7 種でした。

重要な種のうちコウモリ類は、坑道跡内で確認されました。モモジロコウモリは造成区域内の坑道跡で、キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、テングコウモリについては、造成区域外の坑道跡で確認されたものです。なお、カワウ、オオタカ、ノスリ、サシバ、ハヤブサについては上空を通過した個体を確認したものです。

表 11-2 重要な陸生動物

区分	種名
哺乳類	キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、テングコウモリ、モモジロコウモリ、ニホンリス、ヤマネズミ、アゲマ
鳥類	ヤマトリ、アオバト、ツツドリ、ホトトギス、フクロウ、カワセミ、アゲラ、アゲラ、カガヤス、ミサザイ、ルビタキ、オトリ、コガラ、ミヤマ材ジロ、アジ、ウリ (上空を通過: カワウ、オオタカ、ノスリ、サシバ、ハヤブサ)
両生類・爬虫類	タマガエル、モリアゲガエル、カシノガエル、イシガメ、シロマダラ
昆虫類	ガロアムシ、アオリアオコシムシ、アカマダラセンコガネ、ムネモリツボシムシ、ゲンジボタル、セウロクサアブ、ウキソウジミ

魚類は知明湖(田尻川)でアユ、カワムツなどが確認されましたが、事業区域内の支川では確認されませんでした。底生動物は事業区域では緩流域に生息するトンボなどの水生昆虫が確認されました。

確認された生物種のうち、重要な種は表 11-3 に示す魚類 7 種、底生動物 3 種でした。

表 11-3 重要な水生生物

区分	種名
魚類	アユ、クニギツク、カマツカ、コウライゴコ、カシノコ、シロコ、トコ
底生動物	カワナ、フナ、ゲンジボタル